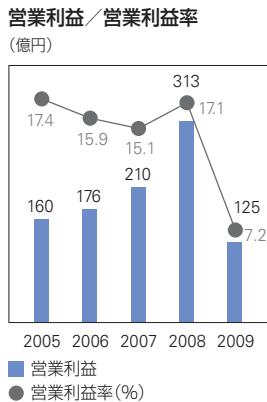
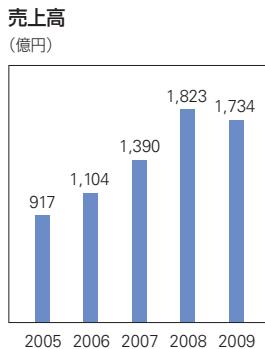


3月31日に終了した各会計年度



## オプト事業



### 2009年3月期のレビュー

● 上半期はすべての製品分野で販売が好調に推移した一方で、下半期は世界的な景気後退の影響を受け、業績は大幅に悪化しました。

ディスプレイ部材分野では、主力製品である大型液晶テレビ用VA-TACフィルムで、新製品を中心としてシェアを拡大しました。また、生産能力の増強も寄与し、上半期までは好調に業績が推移しました。しかし、第3四半期以降、液晶パネルメーカー各社の急激な生産調整の影響を受けたことにより、年間での販売数量は前期を上回ったものの、厳しい状況が続きました。このため、新ライン増設による生産能力増強の凍結を行うとともに、在庫削減や損益分岐点引き下げの施策を実施しました。

メモリー分野では、主力の光ピックアップレンズは、当社が先行して開発に成功し圧倒的な市場ポジションを持つBD用光ピックアップレンズが本格的に立ち上がり、上半期の販売は好調に推移しました。しかし、第3四半期以降需要が急減速し、BD用は前期並みの販売数量にとどまるとともに、CD用やDVD用は販売数量が大幅に減少しました。また、ガラス製ハードディスク基板も第4四半期に入って同様の調整局面に入り、前年並みの販売数量にとどまりました。

画像入出力コンポーネント分野でも、カメラ付携帯電話用マイクロカメラモジュールやデジタルカメラ用ズームレンズなどが、第3四半期以降メーカー各社の減産調整の影響を受け、総じて低調な販売となりました。

これらの結果、当事業の外部顧客に対する売上高は1,734億円(前期比5%減)となりました。営業利益は、急激な販売数量減少の影響や会計基準の変更による減価償却費の増加などにより125億円(前期比60%減)となりました。

### 今後の事業展開

● TACフィルムは、2010年3月期第1四半期には回復局面となる見通しですが、一方で在庫調整局面が引き続き継続するリスクもあると考えています。光ピックアップレンズやガラス製ハードディスク基板の本格的な需要回復にも、しばらく時間がかかる見通しです。このような厳しい事業環境が継続する中でも着実に利益を創出することが、2010年3月期の最重要課題です。このため、生産拠点、資材の購買、在庫管理などの最適化に取り組むとともに、主力のTACフィルムや光ピックアップレンズの競争力を高め、ジャンルトップの地位を堅持します。

また、安定的に力強い成長を持続するための中長期的な課題としては、現在のデジタル家電を中心の事業展開を着実に成長させる一方で、新たな事業領域の拡大を図ることです。

